

代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価

2024（令和6）年4月～2025（令和7）年3月

1 学校教育目標（目指す学校像）	
○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校 ○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校 ○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校	
2 現状と課題	
(1) 生徒について	○基礎基本を確実に定着させたいと考えている生徒、集団の中で学習することが困難な生徒、毎日通学することは困難であるが、限られた日数であれば登校できる生徒、提出物等について計画的に学習に取り組める生徒、さらに高校3年間を目標達成のために有効に活用したいと考えている生徒が増加している。 ○進路（進学・就職）について真剣に悩み相談を求めている生徒が増加している。 ○宿泊集中スクーリングでは様々な出会い、発見があり、成長を実感して帰途につく生徒の声が多く聞かれるようになった。 ○2024年度5月1日の在籍生徒数は1184名（昨年度5月1日で1023名）で、出身都道府県は全国27都道府県となっており最多数は愛知の245名である。
(2) 教職員と組織について	○県内の生徒を対象として行われる年24回の通常スクーリング、年間9回実施される宿泊集中スクーリング（その他「東京SC、名古屋SC、岐阜SC、大阪SC、北京都SC」でも実施）、レポートの添削、その間を縫って行われる個別スクーリングや補講等、教育計画は過密となっているが、生徒の多様なニーズに的確に対応するとともに、より一層充実した学習指導・生徒指導及び進路指導を実施するために指導の工夫と改善に努めている。 ○教員増となり組織の一層の充実が図られたが、若年層の教員については言うまでもなく、経験豊かな教職員についても、各種の教育的な課題についての見識を深めるとともに課題解決に向けての実践力を身につけるため、各種の研修の実施を図っていく。 ○校務分掌の組織体制を強固にするために、主任を中心とした適切な組織編成を進めていく。 ○多様な生徒の実態やニーズを的確に踏まえ教育目標の実現やさらなる生徒増を目指して、校務分掌を細分化し個々の責任分担や組織力の強化を図っていく。
(3) 学校の在り方・教育の特色、地域との連携について	○スクーリングでの真珠の学習やシーカヤック体験等本校の特色ある教育内容や教育方法についてさらに充実を図り、生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進していく。 ○進路指導の一環として、地域との連携をさらに強化していく必要がある。積極的に地元企業へ働き掛けをしていく。

3 中長期的な重点目標

(前述の課題を踏まえて)

- 生徒や保護者の求める個に応じたきめ細かな指導の充実の強化を進めていく。また教育の実態を様々なメディアを通して的確に発信し、学校のブランド力の強化を目指す。
- 積極的な生徒募集策による入学生の安定確保及びより一層充実した教育活動を実施するためのバランスのとれた予算編成と執行等、学校経営の安定化を目指した具体策の検討と実施を図る。
- 通信制のメリットを生かした教育の充実と地域社会への貢献を目指して、行政の協力と理解を得ながら組織体制づくりを計画的かつ確実に進めていく。
- 教職員研修について、すべての教員を対象とし、様々な教育課題（生徒指導、教科指導、特別支援教育、人権教育、危機管理、不祥事防止等）を主題として個別に研修をすすめる、年度末に報告書を作成する。

4 本年度の計画（2024 年 4 月～成果と課題は年度末に記載）

項目	取組内容・指標	結果と自己評価	成果と課題
(1) 生徒について	・基礎基本の学力のより一層確実な定着・伸長を目指して、計画的なレポート提出や積極的な面接指導への参加等の指導を進めてく。また、これからの社会を生き抜くために必要となる力の育成を目指して、本校ならではの特色ある教育内容や教育方法の開発と充実を図る。 ・面接指導や添削指導等の学習活動を通じて、これからの社会を主体的に生き抜くために必要な力の一つとされるコミュニケーション能力の育成をしていく。また、生徒の自己肯定感や達成感や達成感等を引き出す学習活動について研究し、生徒が「探究」しようとする面接指導・添削指導等を確立していく。	・月 1 度のレポート学習会を開催し、基礎学力の定着と理解度また学習意欲の喚起を図ってきた。 ・きめ細かな指導を心掛け、個別の習熟度に沿った教材開発（自己評価カード）を心掛けた。 ・アクティブラーニングの手法を面接指導に取り入れ、生徒に寄り添うことで対話的な学びに焦点を当てコミュニケーション能力の育成に努めた。 また、今年度も各学年ホームルームでは、各生徒に「自己紹介カード」を記入させ、互いの情報交換をすることで所属意識の醸成や仲間作りの場面設定している。一定の効果が認められることから次年度も継続して取り組む。	・レポートの提出が遅れている生徒が例年多く発生している。そこで担任が繰り返し電話で連絡をしたり、登校をさせたりすることでレポートの指導をし、提出を促すことで期限を守れるようになった。 ・面接指導時に活用される自己評価カードは生徒自身が客観的評価をすることができ、課題克服のための手段として、また、教員の指導方法の改善に大いに役立てることができた。 ・各校内行事では複数名で積極的に参加する傾向が見られ、入学後に孤立していた生徒は減少化傾向にある。積極的なコミュニケーション活動が進んでいる傾向にある。

	・キャリア教育の一環として生徒の進路意識を醸成するとともに希望進路の実現を図るために、今年度も校内進路ガイダンスを9回開催した。 ・上級学校に進学する生徒には外部での進学ガイダンスには積極的に参加させていく。	・年9回の進路ガイダンスへの参加を義務とし生徒には卒業後の進路について関心が高まっている。 ・外部団体が開催する進路説明会には3年生を中心に参加する生徒が増加傾向にある。	・校内での進路ガイダンスへの出席を義務化することで、卒業後の進路への意識が高まってきていると言える。今後は、外部団体説明会への参加も促していきたい。
(2) 教職員と組織について	・生徒の現状と課題、これから求められる教育の方向性、危機管理等をテーマに職員会議後に研修会を実施していく。その際全職員が輪番制により発表者となり各人の力量の向上や組織力の向上を図っていく。 ・添削指導のレポート学習を通じてより一層確実に生徒が各観点毎の学力を身につけることができるよう、教科部会を適宜開催していく。また大量の提出レポートを組織力を最大限に生かして一層効率よく、そして確実に採点し返却できるようにしていく。 ・校務分掌組織が有機的に機能するよう、管理職が分掌担当に課題意識を常に持つよう働きかけていく。またPDCAサイクルを活用し、組織力の強化を図っていく。	・月1回職員会議の後に、教員で輪番制による発表形式の研修会を実施。コミュニケーション能力のスキルアップに繋がっている。 ・教科部会の適宜開催による情報共有は面接指導やレポート作成添削に大いに役立っている。 ・レポート処理については分担業務をすることにより合理性が高まり、より確実性も高まってきている。 ・校内行事の事後アンケートや点検活動の報告等において、分掌組織が確実に機能しているか確認に努めている。	・2年目を迎える職員研修会はその発表形式に工夫を凝らすなど職員各々の意識が変化してきている。 また今年度は発表のみならず、年度末には個別の研修報告書を作成し、本校の研究紀要としてまとめることができた。 ・教員数および非常勤講師の確保により、一人当たりのレポート採点枚数を少なくできている。今後はレポートの形式にも工夫改善が必要とされる。 ・年度末に管理職と個別面談を実施し、その際校務分掌への関りへの意識に個人差が見られた。

(3)学校の在り方・地域との連携について	・中学校訪問やホームページの活用を通して、本校教育の魅力をより効果的に発信していく。 ・積極的に地域との関わりを持つように努める。	・中学校の教員グループによる研修会が本校で開催された ・地元企業の協力を得ることができた。	・通信制高校の仕組みを伝える機会を得たことは今後の本校の知名度を高めるための良い機会となった。次年度も同様の研修会を本校主催で開催できるよう努める。 ・地元企業の協力を得て特別活動では窯業の体験実習や「建設業のこれから」をテーマに出前授業を開催できた。進路指導の一環として大変役立てることができ、充実した活動となった。今後も地元企業との関わりを意図的計画的に推進していく。
-----------------------------	--	--	---